

令和6年度 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 学校関係者評価						
4段階評価 「4…期待以上である(できている)」 「3…ほぼ期待どおりである(ほぼできている)」 「2…やや期待を下回る(あまりできていない)」 「1…改善を要する(できていない)」						
学校 目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。					
目指す 学校像	(1)子供たちの可能性を引き出し個性を育む学校 ①幼小中高の一貫教育の推進。発達段階・実態に即した指導法の工夫・改善 ②異なる価値観を認める心、互いを尊重し認め合う心の育成 ③健康に過ごせる環境の確保と充実 (2)子どもたちが夢を描き、その夢を叶えられる学校 ①発達段階に応じた言語力・基礎学力の向上 ②キャリア教育の充実。多様化する生徒一人一人の希望進路への対応 ③施設・設備等、適切な教育環境の確保 (3)職員がやり甲斐をもって、互いにいきいきと過ごすことのできる学校 ①研修時間の確保による教職員の専門性向上 ②組織的かつ機能的な学校運営 ③働き方改革の推進 (4)聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす学校 ①家庭、関係機関との連携強化 ②地域における聴覚障がい児教育のセンター的機能の発揮 ③開かれた学校づくりの推進					
R5年度 経営 ビジョン	「温故置新」～創立97年 次の100年に向けこれまでの積み重ねをより良い形で置き換えていく～ (1)「新学習指導要領」に則った教育改善 ①教育課程のPDCAサイクル確立（評価含む） ②自立と社会参加に向けた教育の充実 (2)自己肯定感と人権意識の醸成 ①困難に立ち向かう諦めない強い心の育成 ②互いの差異や個性を認め合い尊重する気運の醸成 (3)社会の変化にあわせた学びの環境整備 ①適切なICT機器活用による教育活動の再構築 ②地域とともにある学校づくりの推進 (4)働く幸せを実感できる職場の環境整備 ①メリハリのある働き方の推進 ②コンプライアンスの徹底					
評価 項目	評価 指標	自己 評価	保護者 評価	学校の自己評価（成果・課題等）	学校関係者 評価	学校関係者からの感想並びに提言等
個性を 育む 学校	子供たちの各課題に応じた分かりやすい授業が実施できていますか。	2.9	3.4	○ 視覚情報を十分に保障し、小集団で個々の課題に対応しながら指導を行うことにより、保護者や児童生徒の回答でも「わかりやすい授業」という点については高評価である。更に新学習指導要領における思考力、判断力、表現力の育成についても取り組んでいきたい。	3.5	・体育祭や都賀さくら祭での幼児・児童・生徒の様子から、
	幼小中高で連携し、一貫性のある指導が実施できていますか。	2.7	3.2	○ 現在、学部間の「連携」「一貫性」について見直しを行っている。保護者学習会、家庭訪問等の在り方や、学部を中心に行ってきた自立活動についても、全体として整理しているところである。学部間の「つなぎ」の部分を大切にしながら、しっかりと積み上げができる体制をつくってきたい。	3.3	思いやりや憧れ等の気持ちが育っていることがよく伝わってくる。連携や一貫がしっかりできていると思う。 ・学部間の連携はどの支援学校でも課題。教科担任制の中高等部、学級担任制の幼小学部、それぞれの違いに配慮した取り組みが必要。
	自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権や社会的ルールを踏まえた行動ができるような指導ができていますか。	3.1	3.0	○ スマホ利用の低年齢化が進み、SNSトラブルが増加している。各学級でSNSを取り上げた授業を行い、SNSトラブルについて調べ文化祭で発表した学部もあった。学校としての対応の限界もあるため、家庭と協力しながら解決に繋げたい。また、「SOSの出し方教育」「性に関する教育」を外部講師を招いて実施するなど「いのちを大切にする教育」も計画的に実施することができた。	3.3	・都賀さくら祭での中学部発表等、SNSトラブルを自分事として捉えていることが素晴らしいかった。 ・SNSトラブルの中には、聴覚障害者ならではの外からは見えにくい問題もある。かねてから用心し注意しておくことが大切。
	施設や学校設備（遊具含む）の整備や環境美化が十分なされていますか。	3.0	3.0	○ 定期的な点検により遊具の修繕や設備の交換・修理を行っている。学校および寄宿舎共に老朽化は否めないが、衛生面にも可能な限り対応をしているところである。学校前の道路拡張工事は長期間となり対応に苦慮したところはあったが、校門付近から校内道路等の整備は進んだところである。	3.3	・何う度に、整理整頓がされ、美しい学校だと感じている。 ・南海トラフが現実的になっている中、神戸震災の教訓として避難後の対策（自分の生、住所、血液型、他）としっかりと伝えることができるようにしておく指導も必要である。
	感染症などの病気の予防と対策が徹底されていますか。	3.2	3.1	○ 保護者の理解と協力もあり、校内での大きな感染拡大も見られなかった。暑さ寒さ対策としては、気温等の状況に応じて子どもたちの体調優先で空調を活用するなどし、体調管理に努めた。	3.3	・西小学校との交流の際に災害が発生したときの対応等、
	災害への対応について、適切な行動の指導や必要な準備がなされていますか。	3.1	3.2	○ 今年度の地震訓練では防災頭巾やヘルメットを着用した訓練を行ったことで、補聴器や人工内耳が外れやすくなる等の対応について検討する機会となった。今後とも臨場感のある訓練を続けたい。また、消防署と連携し、NET119の生徒保護者への説明会を開催したり、小学部では学部研究として、防災に関する指導の工夫等にも取り組んだりした。	3.1	合同の避難訓練や研修の機会があると良いと考えている。 ・災害の対応については、今後ますます保護者との連携が必要となってくるのではないかな。
その子 ども を た え ら が れ 夢 を 学 描 き、	授業において、言語力や基礎学力の向上を意識した指導が実施できていますか。	3.0	3.3	○ 文字、指文字、手話、音韻を合致させて指導を行うことを共通の配慮事項とし、文化祭、お話発表会（幼小学部）、弁論（高等部）に向けた指導でも言語力の向上を意識して取り組んでいる。今年度は学部研究として、基礎学力を育てるために教科横断的に言語力を育てるという取組を行った学部もあった。	3.1	・授業については、教職員がよく頑張っていると感じた。
	わかりやすい教材教具の工夫や配慮が実施できていますか。	3.0	3.3	○ 全職員が指導案を元にした研究授業を行い、職員同士の参観を推進した。教材教具の工夫など自身の授業改善にも繋がる取組である。ICTを活用した授業も多く見られるようになった。	3.4	・特別支援学級、特別支援学校の作品展や校内に展示されている作品は、群を抜いてすばらしいものだった。個々への丁寧な指導・支援が行われていると感じる。
	行事や体験学習などにより、豊かな経験を広げることができていますか。	3.1	3.4	○ 内容を精選しながら、交流活動や校外学習、職場体験（インターンシップ）等を実施した。本校の子どもたちにとって直接体験による学びが大きいことを踏まえ、学習全体のバランスを見ながら今後とも計画的に実施していきたい。	3.4	・子どもたちの夢実現へは、基礎力（学力・社会能力）強化が大切。子ども・家庭・学校の連携強化により、可能性を高めてほしい。
	個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	3.0	3.2	○ 今年度は、高等部1名が就職、中学部1名が本校、2名が鹿児島豊学校に進学する。一昨年、昨年の卒業生においては、本校を卒業後も進学先で多くの刺激を受け、学びを深め、将来に向かって頑張っているようである。今後も十分な情報提供を元に、実態に応じた進路指導となるように心がけたい。	3.4	・都城市内の全小・中学校はクロームブックを使用。R7年度以降、県内の小中学校でもクロームブックを使用する地区が増えると聞いている。
	I C Tの活用を含め、時代に即し、障がいに 対応した十分な教育環境が整っていますか。	2.9	3.0	○ 県内の特別支援学校ではあまり例がないが、本校は小中学校に準ずる教育課程を実施しているということで、小中学生の自宅への端末持ち帰りについて試行中である。現在課題への対策を検討中。現在はいPadを導入しているが、端末の値段が高騰している。地域の小中学校では別の端末を活用している状況もあるため、今後どのような機種を取り入れるかについても検討していきたい。	3.0	・ICTを使った授業のニュースを時々見かける。本校でも今年度端末持ち帰りを試行中とのことで、来年度の実施を期待している。
互いに いき いき と 過 す こ と の で き る 学 校	障がいの実態に応じた指導・支援が日々実践できていますか。	3.0	3.0	○ 教科指導を深めると聴覚障がいの専門性を学ぶことの両方を進めていくことに悩む職員も多いが、充実した校内研修により、細やかな実態把握を元にニーズに応じた指導を行っている。聴覚障害だけでなく、発達障害、知的障害の支援が必要な子どもたちについても、校内外の研修を活用し、家庭と連携しながらより良い実践に繋げたい。	3.3	・どの項目でも保護者の評価が3以上あり、日々の教職員の指導の熱心さが伝わっている証と感じる。
	（職員のみ）研修を実施し、職員の専門的指導力の向上に取り組んでいますか。	3.2		○ 本校1、2年目の職員に向けた年間10回以上の基礎研修や、全職員による手話研修（経験年数によって2グループに分かれて実施）など専門性の習得のための研修に積極的に取り組んでいる。手話研修では、正確な手話を知るだけでなく、聴覚障害者との関わり方等についても多くの学びを得ることができた。また各学部の課題に合わせた研究に取り組んだ他、外部講師の講演を元に、本校の将来を見据えたビジョンについて学部ごと、また全体でも話し合うなど新しい取組にも挑戦した。	3.3	・職員が心身ともに健康であることが基本。無理のないように学校全体でこれからも働きやすい環境づくりに取り組んでほしい。 ・教職員が研修や業務改善等に努力していると感じる。厳しい業務環境で大変だが、心身に気配りし取り組んでほしい。
	（職員のみ）校内でのO J Tを推進し、課題に対して組織（各部）で取り組んでいますか。	2.9		○ 本校におけるOJTの必要性和取り組み方について年度当初に説明し、意識して取り組んでもらった。指導教諭を幼小学部、中高等部と担当を分けて配置する、業務を二人体制で行うなど継承ができる体制を試みたところである。実際には時間的余裕がなく、職員同士の関わり合い自体が持てない様子も見受けられる。働き方改革と合わせて、改善が必要である。	3.0	・内容のある、またレベルの高いところを目標にした研修をしている。
	（職員のみ）働きやすい環境作りについて取り組んでいますか。	3.0		○フレックスタイム制の本格的導入やICTを活用した業務改革などが進んだ1年であった。少しずつ各自に合わせた働き方ができるようになった部分もあり、自己評価は昨年度よりやや上昇している。一方で、多くの職員が平日遅くまでの残業や週末に学校に出てきて仕事をすることによって業務をこなしている状況がある。職員が心身共に健康に業務に取り組めるように、改善に努めたい。	2.7	・この仕事は「ここがゴール」というものがないので、時間があればどこまでもやっつけよう。職員の健康面にも気をつけてほしい。 ・先進的な取り組みが実践されていて素晴らしいと思う。
セン ター 的 聴 役 障 を が 果 いた 教 育 学 校	学校での様子を懇談や連絡帳等でよく知ることができですか(十分に知らせることができていますか)。	3.3	3.3	○ 担任との情報共有については、連絡帳や電話・メール、個別懇談等で細かなやりとりができたようだ。今後とも丁寧な情報交換を継続していきたい。県の防災メール廃止に伴い、欠席連絡のできるアプリを導入した。年度途中の移行となり心配したが、緊急時等の一斉連絡についてもスムーズに行えている。出欠連絡について、保護者からの連絡が手軽となり、学校では各職員が直接出欠確認ができるようになった。	3.1	・体育祭や都賀さくら祭での保護者の協力・観覧の様子（笑顔が多い）から、連携や情報発信がしっかりできていると感じた。
	子供のことを相談しやすく、ニーズに応じた支援（専門家や関係機関との連携を含む）ができていますか。	3.2	3.1	○ 臨床心理士を交えた発達相談会、補聴器業者や宮崎大学附属病院との連携に加え、今年度からはスクールカウンセラーの活用と、多様な機関と組織的に連携して対応している。引き続き、子供たちや保護者の困り感やニーズを丁寧に吸い上げ、早急に対応できるようにしていきたい。	3.0	・多方面の専門家をお願いすることも良いが、やはり一番の専門家はさくらの先生方なのではないでしょうか。また、そうあってほしいし、そのように先生方が努力されていると思う。
	教育相談体制の充実を図り、地域における聴覚障がい児教育のセンター的役割を果たせていますか。	3.1	3.1	○ 小中学校への通級指導の他、通級を経て高校に進学した生徒の啓発授業の協力・支援、また在籍校の職員研修など、年間をとって本校のセンター的業務へのニーズは大きい。今年度は私立高校とも連携するなど、更に本校の専門性について理解が広がったところである。今後さらに広報活動にも取り組みながら支援の輪を広げたい。	3.1	・ホームページの更新に積極的に取り組まれたとある。情報発信を進められたのが素晴らしい。
	地域に学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	2.9	2.8	○ 昨年度に比べ、各学部、寄宿舎ともにホームページの更新に積極的に取り組んだ。年度当初に個人情報についてしっかりと確認を取り、配慮しながら情報発信を行っている。今後メディアの活用を含め、本校の情報発信を積極的に行いたい。	2.9	